

HUM100 民族音楽学

1年 3,4クォーター

担当教員 Wayne Malcolm

授業形態 講義

アクティブ・ラーニング アクティブ・ラーニング科目

単位数 2

曜日・時限 火曜日・2時限

授業概要

民族音楽学協会によると、「民族音楽とは、その文化的な文脈における音楽の研究」である。本講義は、この定義を探究するために、自国や他文化の音楽を聴き、それについて書き、それに深く関わっていく入門コースである。録音データ、動画、文献を教材として使用し世界各地の音楽に接し、我々の音楽についての洞察を共有する。これまで聴いたことがない音楽や、よく知っている音楽を取り上げる。本講義の主な目的は、文化にとっての音楽とは「何か」だけでなく、文化において「なぜ」音楽が存在するのかを考えることである。

到達目標

1. 様々な文化的背景（我々自身の背景を含む）における音楽を理解する。
2. 音楽について読み、書き、話し、聴くための語彙を学ぶ。
3. 研究したトピックについて考えや意見を発表する。
4. 学術研究のスキルを学習し、伸ばしていく。
5. プレゼンテーションスキルを学び、実践し、向上させる。

先修科目

なし

教科書・参考資料等

1. Bonnie C. Wade, *Thinking Musically: Experiencing Music, Expressing Culture*, 第3版.
2. 他の読み物およびオーディオサンプル

授業の方法

このコースは、担当者が講義することもあるが、学生の参加が求められる双方向形式で授業が行われる。ペアワーク、小人数でのグループワーク、担当者との対一の対話などで進められる。このコースでは、リーディング、フリーライティング、ジャーナル・ライティング（日誌風ライティング）、正式なエッセイライティング、プレゼンテーション、動画、オーディオサンプルなどを学ぶ。クラス内活動の準備のために宿題を出す。このような授業の性格上、クラス外で音楽を聴いたり、動画を視聴したりしなければならない。また、インターネットで作業する必要がある。エッセイの作成や添付ファイルの送受信のため、パソコンの使用が必要となる。

成績評価

努力が評価に大きく関わる。出席、クラスへの貢献度、宿題、ジャーナル・ライティング、正式なエッセイ、リスニング試験、プレゼンテーションで評価を行う。

成績

クラスへの貢献度	20%
テスト / 小テスト	20%
正式なエッセイ	20%
プレゼンテーション	20%
宿題（ジャーナル等）	20%

授業スケジュール

第1週：音楽と文化の「なぜ」

コース概要と様々なトピックの紹介。音楽と文化の繋がりについて話し合う。民族音楽学とは何か理解し、その理解を授業にどのように適用するのか。

第2週：音楽

音楽について語る。音楽とはなにか。物理的、感情的、あるいは文化的な視点から捉える。

第3週：文化

文化とはなにか。文化は我々の音楽の理解をどのように形成しているのか。この問いに対する答えを探る。

第4週：アイデンティティ

我々を我々自身にしているものはなにか？我々の音楽鑑賞は、最終的には、どのようなアイデンティティによるものなのか、また音楽は我々について何を語るのかを探究する。

第5週：文化的アイデンティティとしての音楽

文化としての音楽、それが文化的集団となった人々の中で果たす役割について議論し、理解を深める。

第6週：音楽と社会

世界の社会で音楽が持つ有意性、社会的、政治的、経済的、文化的論争の意味は重要である。これらの意味の関連性を探る。

第7週：教室内での論述式試験

第8週（第3クォーターの終わり）：プレゼンテーション

第3クォーターで議論したトピックに関してグループプレゼンテーションを行う。

第9週：音楽の世界

「ワールドミュージック」という考えを紹介する。これが消費者や作成者にとって何を意味するのか。

第10週：楽器の分類

第11週：楽器と精神性

第12週：楽器とアンサンブル

第13週：楽器の見分け方

第14週：楽器と文化的な理解

第15週：教室内での論述式試験

第16週（第4クォーターの終わり）：プレゼンテーション

第4クォーターで議論したトピックに関してグループプレゼンテーションを行う。

事前・事後学習

- ・ 予習：参考図書の該当する章を予習してくること（1時間程度）。
- ・ 復習：授業内容を復習し、疑問点を整理すること（1時間程度）。